

市政ニュース

コウノトリ但馬空港フェスティバルの開催 59,000人が航空ショーなどを楽しむ

7月28日・29日の2日間、「届けよう未来へ 広げよう夢を」をテーマにコウノトリ但馬空港フェスティバル07を開催し、地元をはじめ全国各地から約59,000人の航空ファンや家族連れなどが訪れ、にぎわいました。



次々と繰り出される華麗な曲技飛行に歓声と拍手が止まなかった

特に人気を集めたのは曲技飛行で、小型航空機やヘリコプターなどが音楽に合わせて、急上昇や急降下、宙返りや背面飛行などの大技を次々に披露すると、会場から大きな歓声が上がっていました。そのほかにも、紙飛行機教室や熱気球係留体験フライトなどの参加・体験イベントや但馬グルメまつり、ステージイベントなどが繰り広げられ、子ども連れの家族などが楽しい一日を過ごしていました。

有アルタナティブが自動車用アイドリングストップ装置を寄贈 公用車がアイドリングストップのモデルカーに

7月12日、有アルタナティブ(豊岡市加広町)から、自動車燃料の消費を節約し、CO2の削減を目的とした、自動車用後付アイドリングストップ装置2台の寄贈を受けました。市役所前駐車場では、アイドリングストップ装置を取り付けた公用車2台が披露され、市職員が関係者から操作方法の説明を受けました。同社代表取締役の上田直樹さんは、「地球温暖化防止の一助になればいいですね」と話していました。



アイドリングストップ装置取付車の操作を確認する職員

J A たじまがコウノトリ基金に寄付 コウノトリ育む農法を全国に

7月24日、JAたじまからコウノトリ基金に180,000円の寄付を受けました。JAたじまでは、地元農家がコウノトリの餌となる生き物を育み、安全な米を生産しようとして取り組んでいる「コウノトリ育む農法」によって生産したお米を「コウノトリの郷米」として、地元スーパーや東京、京阪神などの米穀小売店に販売しています。

今回、昨年9月から約10カ月間に販売されたこの「コウノトリの郷米」の売上金の一部を同基金に寄付いただきました。同組合長の田口義修よしのぶさんは、「コウノトリの郷米の名は、全国に届いています。今後は、地元農家の人たちと連携を図りながら、コウノトリ育む農法を推進していきたいです」と話していました。

7月

主な市政の動き

- 12日 総合健康ゾーン整備運営事業にかかる募集要項等を公表
- 13日 運動遊びのつどい
- 16日 国保ヘルスアップ事業講演会「運動で予防するメタボリック・シンドローム」
- 22日 北但地域環境フォーラム(新温泉町)
- 23日 兵庫県市町長防災危機管理ラボ
- 28日 日高夏まつり(24日)コウノトリ但馬空港フェスティバル(29日)
- 29日 ひのそ島掘削完成を祝う会
- 30日 豊岡消防団自主防災組織夏期訓練
- 31日 たけの海上花火大会
- 1日 放鳥コウノトリのヒナ巢立ち
- 1日 柳まつり豊岡おどり
- 2日 柳まつり花火大会
- 3日 「大水害被災地市区町村からの緊急アピール」被災者生活再建支援制度に関する要望(東京都)
- 4日 早崎内湖再生フォーラム(滋賀県)
- 5日 全国菜の花学会・楽会 in 東近江(滋賀県)

放鳥コウノトリのヒナ巣立ちを祝って懸垂幕を設置 自然界へ新たな一歩 豊岡は祝賀ムード一色に

8月1日、市では、国内の自然界では46年ぶりとなるコウノトリのヒナの巣立ちを祝って、市役所本庁舎正面に懸垂幕を設置しました。

この懸垂幕は、縦8・4メートル、横0・9メートルで、「祝放鳥コウノトリのヒナ巣立ち」と記されています。

また、同日、市立コウノトリ文化館にも横断幕を設置し、お祝いメッセージの寄せ書きが行われました。さらに、ヒナが生まれてから巣立つまでの写真を展示（8月31日まで）



市役所本庁舎正面に設置した懸垂幕

豊岡市など大水害被災市町が国へ要望書提出 水害予防と被災者支援制度の充実を緊急アピール

8月3日、豊岡市や新潟県見附市など、44市町が、水害予防と被災者支援制度の充実を求める合同緊急アピールを国へ行いました。

この合同緊急アピールは、水害の経験を全国の自治体で共有し、今後の水害対策に役立てようと、平成17年から毎年開催されている「水害サミット」に参加した自治体44市町で行いました。

しています。

同館に隣接するコウノトリ本舗では、「ヒナ巣立ち記念セール」が行われました。

当日は、豊岡市長、新潟県見附市長、長野県岡谷市長、京都府与謝野町副町長、徳島県小松市長が、下村官房副官、冬柴国土交通大臣、菅総務大臣などの政府関係者に、

災害に遭って初めて対策が講じられるのではなく、より効果のある予防的な対策が進められていくことに重点を置いた合同要望書を直接提出しました。

ひのそ島(円山川の中州)掘削が完成 湿地に自生する貴重植物を保護するため 特殊工法を採用

洪水防止を目的に、国土交通省が平成14年度から進めていた円山川の中州「ひのそ島(注)」掘削工事がこのほど完成し、7月28日、豊岡市赤石の円山川右岸で国・県・市・地元関係者など約70人が出席して、「完成を祝う会」が行われました。

式典では、地元の城崎小学校金管バンド部によるウエルカム演奏、三江小学校と田鶴野小学校の児童や関係者によるひのそ島でのドジョウやフナなどの放流が行われました。

掘削工事により、ひのそ島の直上流(河口から7・2キロメートル地点)で約29センチ水位が低下し、改修の効果は、豊岡市街地から出石川の合流点付近まで及びます。

(注)「ひのそ島」は円山川の中州で玄武洞のやや下流に位置します。掘削予定場所にタコノアシ、タウコギなどの貴重植物が確認されたため、環境面に配慮して左岸側半分を掘削、右岸側半分は水面の高さに合せて削り、湿地を造成する工法が採用されました。



完成を祝ってどじょうを放流する関係者と児童

ライオン商事(株)が防災用簡易トイレを寄贈 緊急時に備えて市役所本庁や各総合支所に配備

8月2日、ライオン商事(株)(東京都)から市に防災用簡易トイレ(快適おはなつみ広場)500セット(1セットに便器3個)の寄贈を受けました。

同社では、平成16年の台風23号で大きな被害の遭った自治体へ、今後の災害時に有効に活用していただきたいとして寄贈されているもので、本市には同社の取引先であるメィワ(株)(出石町鳥居)を通じて、寄贈いただきました。

同社常務取締役ベツト事業部長の齋藤 敬さんは「平成16年の台風23号で豊岡市は大きな被害を受けました。今後、災害時に少しでも役に立てばと防災用簡易トイレを寄付させていただきました」と話すと、中貝市長は「防災用簡易トイレは市役所本庁、5つの総

合支所などにそれぞれ配備して、緊急時に備えます」と答えました。



ライオン商事(株)常務取締役ベツト事業部長の齋藤 敬(左)さんから防災用簡易トイレの寄贈を受ける中貝市長